

寄贈図書リスト

デジタル・アイ 冷却 CCD でとらえた深宇宙  
 岡野邦彦著, A 5 判, 92 p, 2,400 円, 地人書館,  
 天体写真集

STELLAR EVOLUTION, STELLAR EXPLOSIONS AND  
 GALACTIC CHEMICAL EVOLUTION

Anthony Mezzacappa 編, A 5 判, 737 p, 190 英,  
 Institute of Physics Publishing Bristol and Philadelphia, 専  
 門書

「天文手帳 1999」(星座早見盤付天文ポケット年鑑)  
 地人書館, A 6 判, 256 p, 733 円

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の  
 「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりま  
 すので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で gpjimu@tenmon.or.jp 宛, なお, 原稿も必ず  
 0422-31-5487 迄 Fax でお送り下さい。

名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

1. 教授または助教授 1 名
2. 総合解析部門
3. 太陽-地球システムの構造/変動の研究  
 上記部門においては, 太陽地球系の総合研究, とく  
 に領域間の相互作用の研究が行われています。今回の  
 公募では, 人工衛星/地上観測データの総合解析とシ  
 ミュレーション/モデリングをつなぐ研究の発展に指  
 導的役割を果たして頂くとともに, 幅広く太陽地球系  
 科学の教育にも当たって頂ける方を希望します。

全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分  
 理解し, 当研究所の研究にリーダーシップを発揮する  
 方を希望します。

5. 平成 11 年 4 月 1 日以降のできるだけ早い時期
7. 履歴書, 研究歴, 業績リスト, 主要論文別刷, 研究  
 計画書 [応募する職種 (教授, 助教授の別) を明記の  
 こと]; 自薦の場合は本人について意見が述べられる  
 方 2 人の氏名と連絡先, 他薦の場合は 2 名からの推薦  
 書。封書に「教官応募書類在中」と朱書きし, 書留で送  
 付のこと。

8. 平成 11 年 1 月 20 日 (水)
9. (1) 〒 442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13  
 名古屋大学太陽地球環境研究所  
 所 長 國 分 征  
 電話 0533-89-5182  
 FAX 0533-84-8806  
 (2) 〒 442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13  
 部門主任 上出 洋介  
 電話 0533-89-5183  
 FAX 0533-89-0409

11. 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選  
 考に基づき, 同運営協議会の意見を求めて同教授会で  
 決定します。なお, 該当者がいない場合は決定を保留  
 します。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目にしたがってご投稿下  
 さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・  
 所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担  
 当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7.  
 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先,  
 (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇な  
 ど)

京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室教官

1. 助手 1 名
2. 京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室
3. 天体物理学
5. (1) 決定後なるべく早い時期
7. 履歴書, 研究業績の概要(2000 字程度), 業績リスト,  
 研究計画(2000 字程度), 主要論文別刷, 応募者につい  
 て照会可能な人 2 名の氏名と連絡先
8. 平成 11 年 1 月 28 日 (木) 必着
9. (1), (2)  
 〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町  
 京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室  
 主任 大谷 浩  
 TEL: 075-753-3894
10. 封筒に「助手応募書類」と明記すること。  
 郵送による場合は書留とすること。

国立天文台 COE 研究員公募

1. 研究者若干名
2. 以下の分野で公募します。
  - (1) 宇宙電波分野  
ミリ波干渉計の超高帯域相関器の開発, 45m ミリ波望遠鏡のマルチビーム超伝導受信機の開発, 45m 望遠鏡と干渉計を結ぶレインボウ計画などミリ波・サブミリ波観測性能の高感度プロジェクトに従事し, 電波天文学分野における先進的な観測研究を推進する。
  - (2) 長野県南佐久郡南牧村野辺山

---

- (1) すばる望遠鏡プロジェクト  
建設中の大型光学赤外線望遠鏡「すばる」のプロジェクトに従事し, 各種の技術開発試験・観測・研究を推進する。
- (2) 東京都三鷹市, 岡山県浅口郡, ハワイ観測所など。

---

- (1) VLBI 分野  
VSOP, 国内 VLBI 等のプロジェクトに従事し, 活動的銀河核・星形成領域や星周領域のメーザー源などの観測・研究を推進する。
- (2) 主として東京都三鷹市

---

- 〈一般分野〉
- (1) 天文学データ解析計算センター  
(地上観測を中心とした総合的天文データベースの構築等)
- (2) 東京都三鷹市

---

- (1) 理論天文学  
(大規模天文シミュレーション及び計算機共同利用の推進等)
- (2) 東京都三鷹市

---

- (1) 太陽物理学 (「ようこう」衛星, 太陽フレア望遠鏡等)
- (2) 勤務地: 東京都三鷹市

---

- (1) 位置天文・天体力学研究  
(重力レンズによる位置天文, 重力波関連の技術開発, 光赤外干渉計技術)
- (2) 東京都三鷹市

---

- (1) 地球回転 (地上 VLBI 統一計画, 月面 VLBI 等)
- (2) 岩手県水沢市

---

- (1) 太陽電波 (電波ヘリオグラフ)

(2) 勤務地: 長野県南佐久郡南牧村野辺山 411

5. (1) 平成 11 年 4 月以降, (2) 任期は原則として 2 年
6. 博士の学位を取得または平成 11 年 3 月 31 日までに取得見込みのもので, 平成 11 年 4 月 1 日現在 35 歳未満のもの
7. (1) 履歴書 (写真付き), (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと), (4) 主要論文の別刷又はコピー, (5) 研究計画書 (希望の分野・プロジェクトを明記のこと), (6) 推薦書 (ある場合は添付)
8. 1999 年 2 月 12 日 (金) 当日 17 時必着
9. (1) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台長 小平桂一  
(2) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台企画調整主幹 観山正見  
TEL 0422-34-3738
10. 封筒の表に「COE 研究員応募書類在中」と朱記し, 郵送の場合は簡易書留で送付すること。別に公募する「国立天文台研究員」に併せて応募することは差し支えない。
11. 待遇は非常勤講師の扱いで, 給与は月額 30 万程度を供する。

国立天文台研究員 (非常勤研究員) 公募

1. 研究員 (若干名)  
国立天文台において, 開発, 観測, 研究等に積極的に取り組み, 先進的な研究を推進する若手研究者を求める。以下に分野, 及び勤務地を掲げる。
2. (1) 電波天文学分野 (若干名)  
(2) 主として長野県南佐久郡南牧村野辺山

---

- (1) 天文学データ解析計算センター (1 名程度)
- (2) 東京都三鷹市

---

- (1) 光学赤外線天文学 (若干名)
- (2) 主として東京都三鷹市 (岡山もあり得る)

---

- (1) 一般 (若干名)  
〈上記以外の研究分野〉
- (2) 主として東京都三鷹市

---

5. (1) 平成 11 年 4 月 1 日以降 (2) 原則として任期 2 年
6. 大学院修士課程修了, 又はそれと同等の学力を持つ者。
7. (1) 履歴書 (写真付き), (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと)(4) 主要論文の別刷又はコピー,

(5) 研究計画書 (希望の分野・勤務地、受け入れ教官名 (希望) を明記のこと), (6) 推薦書 (ある場合は添付)

8. 公募締切: 1999年2月12日(金)当日17時必着

9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台長 小平桂一

(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台企画調整主幹 観山正見

TEL 0422-34-3738

10. 封筒の表に「国立天文台研究員応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。別に公募する「国立天文台 COE 研究員」に併せて応募することは差し支えない。

11. 教務補佐員としての給与を支給する (詳細については上記に問い合わせること)。

## 大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻 助教授

1. 助教授 1名

2. 宇宙進化グループ

3. 宇宙物理学理論

4. 決定後できるだけ早い時期

6. 博士号取得者

7. ○履歴書○研究業績リスト○主要論文別刷 (5編以内) ○これまでの研究概要 (2000字以内) ○研究計画 (2000字以内) ○照会可能者2名の氏名と連絡先

8. 1999年1月30日(土)必着

9. (1) 〒560-0043 豊中市待兼山町 1-1

大阪大学理学研究科宇宙地球科学専攻長

佐々木 節

(2) 同専攻 佐々木 節 電話 06-850-5485

misao@vega.ess.sci.osaka-u.ac.jp

または 高原文郎 電話 06-850-5481

takahara@vega.ess.sci.osaka-u.ac.jp

FAX 06-850-5504

(電話番号は1999年1月2日以降は06-6850-\*となる)

10. 封筒に「宇宙進化助教授応募書類」と朱書き、書留で送付のこと

## 人事公募結果

1. 掲載号

2. 結果 (前所属)

3. 着任時期

### 国立天文台電波天文学研究系教授

1. 第91巻7号

2. 中島 弘 (国立天文台電波天文学研究系)

### 国立天文台電波天文学研究系助教授

1. 第91巻7号

2. 関本裕太郎 (東京大学理学部物理学教室)

### 国立天文台電波天文学研究系助手

1. 第91巻7号

2. 江澤 元 (東京都立大学理学部物理学教室, 日本学術振興会特別研究員)

1. 第91巻7号

2. 河野孝太郎 (国立天文台, 日本学術振興会特別研究員)

### 群馬県立ぐんま天文台「観測普及研究員」

1. 第91巻8号

2. 西原英治, 大林 均

3. 1999年4月1日

## 研究助成

### 山田科学振興財団研究援助候補推薦

山田科学振興財団より本会宛に、下記内容の1999年度研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します。

(推薦要項抜粋)

1. 援助の対象: 自然科学の基礎的研究

(実用指向研究は対象外)

2. 援助の金額: 1件当たり100~500万円の援助を10件。

3. 推薦件数: 1学会ごとに2件以内。

★申請用紙をご入用の方は、学会事務室までお申し出下さい。申請書は、1999年3月1日までに下記宛に提出して下さい。

宛先: 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台内 社団法人 日本天文学会

平成 11 年度宇宙環境利用に関する  
地上研究公募のご案内

国際宇宙ステーションの宇宙における組立が本年 11 月から開始され、本格的な宇宙環境を利用する時代を迎えようとしております。宇宙環境では、微小重力や高真空等地上では得がたい環境の下で、実験を実施することができます。我が国は、国際宇宙ステーション計画に独自の実験棟 (JEM: Japanese Experiment Module) をもって参加しており、今後、このような宇宙環境を利用する機会が飛躍的に増大することになります。一方、地上での広範な分野の研究を宇宙環境を利用する実験に結びつけ、更には具体的な宇宙実験の提案・実施に至るまで地上における関連研究の蓄積が必要です。

本制度は、このように JEM を中心とした宇宙環境を利用する準備段階として、幅広い分野の研究者に研究機会を提供し、宇宙環境利用に関連する地上研究を推進することを目的としています。

〈公募制度の概要〉

- 大学、国公立試験研究機関、民間企業などの研究者の方々を対象に幅広く研究テーマを募集します。
- 公募対象研究分野 (以下の 7 分野)  
微小重力科学、生物科学、バイオメディカル、宇宙医学、宇宙科学、地球科学、宇宙利用技術開発
- 研究費  
・ フェーズ I 研究 (フェーズ I 研究 (A): 3 千万円以下/年  
フェーズ I 研究 (B): 6 百万円以下/年  
フェーズ I 研究 (B) 萌芽的研究 150 万円以下/年)

宇宙環境の利用を指向した研究テーマについて、宇宙環境利用の研究の有効性や研究手法、実験手段等について、理論研究、調査検討や地上実験を行うもの。

- ・ フェーズ II 研究 (1 千万円程度～1 億円以下/年)  
宇宙環境を利用した研究の意義及び有効性が認められ、研究手法や宇宙環境での実験に対する実験概念が明確に定義された研究テーマについて、JEM 利用テーマ募集への応募を目標に実験の計画作成及び実験装置等の要求仕様の設定を伴う本格的な宇宙環境利用に向けた準備段階にある研究を対象とします。

- 財団法人日本宇宙フォーラム内に、有識者によって構成される委員会を設置し、応募された研究テーマの選定等を行います。
- 研究形態  
研究形態としては、委託研究 (大学、企業)、共同研究 (国立研究所)、招聘研究の形態をとります。
- 研究期間  
1 年～3 年

- 実験施設、試験施設の提供  
研究の必要に応じて調整の上、落下塔、航空機の微小重力模擬実験施設等の利用機会を提供いたします。
- スケジュール  
・ 応募締め切り: 平成 11 年 1 月 29 日 (金) (消印有効)  
・ 研究開始: 平成 11 年 7 月～  
注記: 上記事項については、11 月下旬以降に詳細な応募要領等下記ホームページに掲載する予定です。
- 問い合わせ先  
財団法人日本宇宙フォーラム 公募研究推進部 募集担当  
電話: 03-3459-1653 FAX: 03-5470-8426  
URL: <http://www.homepage.co.jp/jsforum>  
e-mail: [koubo@jsforum.or.jp](mailto:koubo@jsforum.or.jp)

研究会・集會案内

天体力学・N 天体力学研究会

- 日時: 1999 年 3 月 3 日 (水) 13 時～5 日 (金) 13 時  
場所: 郵政省通信総合研究所 鹿島宇宙通信センター  
内容: 本研究会は昨年度の「第 30 回天体力学研究会」に続くものです。天体力学の他、多数の質点が相互作用をした結果おこる集団運動の理論づくりを中心とした、非線形力学系の問題、この現象の工学への応用もとり上げます。集団運動は、物性・生物・惑星科学など様々な分野にみられます。複数分野の研究交流によって問題解決や問題提起を生む研究会にします。招待講演「ハミルトン系のカオス (クラスター形成・多体系の緩和)」(相澤洋二氏) があります。
- 定員: 50 名程度  
参加費: 10,000 円  
講演・参加申込締切: 1999 年 2 月 3 日 (水)  
世話人: 梅原広明・川瀬成一郎 (通総研)・吉川 真 (宇宙研)・伊藤孝士・福島登志夫 (国立天文台)・布施哲治 (総研大)  
連絡先: 314-0012 茨城県鹿嶋市平井 893-1  
鹿島宇宙通信センター内 天体力学・N 天体力学研究会事務局 梅原広明  
電話: 0299-84-7152 Fax: 0299-84-7160  
URL: <http://www.crl.go.jp/ka/index-j.html>  
e-mail: [dyn-admin@kashima-gw.crl.go.jp](mailto:dyn-admin@kashima-gw.crl.go.jp)  
その他: 1 月上旬迄には詳細な案内状・申込書ができます。送付希望の方は、上記宛先までご連絡下さい。  
また、最終日午後には、日本スペースガード協会による研究会も同じ場所で引続き行ないます (こちらは無料。問合せ先 <http://pluto.mtk.nao.ac.jp/SGFJ/>)。)

## 「銀河学校 1999」開催のお知らせ

東京大学木曾観測所では、1999年3月22日～24日に「銀河学校 1999」を開きます。参加者は観測所に泊まり込み、天文学者と一緒に研究用大型シュミット望遠鏡を使って CCD 撮像観測やデータ処理を行います。今年は、科学者（天文に限定しません）を目指す高校生を対象に募集していますので、関心のある方は、下記の要領で応募して下さい。

期日：3月22日(月)13時30分 JR 木曾福島駅前 集合  
～24日(水)15時 JR 木曾福島駅前 解散

対象：高校生または相当年齢の方 10名

費用：交通費自己負担

滞在費無料（食事代、傷害保険料実費）

応募方法：「私が研究してみたい事」という題で400字詰原稿用紙2枚程度の作文を2月15日必着で木曾観測所宛にお送り下さい。

住所、氏名、生年月日、性別、電話番号、学校名を明記して下さい。選考の結果は2月末日までに各人宛通知致します。

宛先：〒397-0101 長野県木曾郡三岳村

東京大学木曾観測所

TEL 0264-52-3360 FAX 0264-52-3361

木曾観測所ホームページ

[http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/kiso\\_obs](http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/kiso_obs)

★内容に関するお問い合わせは、木曾観測所 田中由美子宛にお願い致します。

(e-mail: yumiko@kiso.ioa.s.u-tokyo.ac.jp)

観測内容：

今回の「銀河学校」の狙いは、将来研究者になりたいと思っている高校生に、実際の研究活動を体験してもらう事です。参加者は、観測所に泊まり込み、東京大学の研究者と共に、観測、データ解析、討論を行います。観測には木曾観測所口径105cmシュミット望遠鏡に装着した赤外線カメラを使い、赤外線で見えた星団の性質を研究します。観測の内容は、星団中の赤色巨星の温度や明るさの系列を明らかにする事です。赤外線による星団の観測は、現在専門家による研究が進められつつある分野で興味ある結果が期待されます。

## 次期月探査シンポジウム

## 「セレーネ2号機をめざして」開催のご案内

今年度から SELENE（月探査周回衛星）計画が開発研究と認められ、現在システム予備設計を実施しておりますが、SELENE以降の様な月研究・利用ミッションを行うべきなのか、そろそろ具体的な検討を開始すべき時期が来ていると思われます。そのため2006年頃、H-2Aを用いた打ち上げを想定した次期月ミッションに関して、様々な観点から自由に討議する場が必要であると考え、上記シンポジウムの開催を計画しております。多数の方々の講演発表と参加をお願い申し上げます。

主催：宇宙科学研究所、国立天文台、宇宙開発事業団

開催日：平成11年3月23日(火)、24日(水)

会場：国立天文台解析研究棟大会議室（三鷹市）

呼掛人：鶴田浩一郎（宇宙科学研究所教授）

水谷 仁（宇宙科学研究所教授）

海部宣男（国立天文台ハワイ観測所長）

唐牛 宏（国立天文台教授）

観山正見（国立天文台企画調整主幹）

三浦秀一（宇宙開発事業団理事）

長島隆一（宇宙開発事業団先端ミッション研究センター長）

連絡先：宇宙科学研究所

飯島祐一 (ijjima@selene.sci.isas.ac.jp)

Phone：0429 (59) 8181

Fax：0429 (59) 8457

：国立天文台水沢

花田英夫 (hanada@miz.nao.ac.jp)

Phone：0197 (22) 7142

Fax：0197 (22) 7146

：宇宙開発事業団先端ミッション研究センター

横山隆明 (Yokoyama.Takaaki@nasa.go.jp)

Phone：0298 (52) 2251

Fax：0298 (52) 2247

講演内容（案）

一般講演としては以下の3セッションを予定しております。

- S 1 月の科学(月の内部構造、ペネトレーター、地質・鉱物探査、等)
- S 2 月からの科学(小型実験望遠鏡、将来の月面天文台、等)
- S 3 月探査技術(夜間サバイバル技術、月面ローバー、掘削技術、等)

日程（案）

3月23日(火)9：30開演

基調講演：これまでの日本の月探査計画と将来展望  
(予定)

一般講演 18:00～懇親会  
 3月24日(水) 9:30～15:00 一般講演  
 15:00～17:00  
 ディスカッション (ワーキンググループの  
 設立について.)

〈講演の募集〉

上記のセッションで講演を多数募集いたします。一講演あたり15～20分を予定しております。

〈講演/参加の申込方法〉

今回のシンポジウムでは、シンポジウムホームページにて申し込みを受け付けております。

ホームページアドレス:

<http://hope.tksc.nasda.go.jp/selene-2/>

[申し込み手続き]をクリックし書式に従ってお申し込み下さい。またe-mail, FAX, 郵送にても申し込みを受け付けております。下記の書式に従いお申し込み下さい。

- 1 氏名及び所属
- 2 通信先 [郵便番号, 住所, 氏名, 電話番号, FAX, e-mail]
- 3 講演の有無 (講演の場合希望セッション)
- 4 使用器具 (OHP, ビデオ (VHS), その他)
- 5 講演題目
- 6 講演概要 (数行程度)

申し込み締切:平成11年1月31日

申込先: (e-mail) [selene-2@moon.nasda.go.jp](mailto:selene-2@moon.nasda.go.jp)  
 (FAX または郵送)

〒105-0013 東京都港区浜松町1-29-6  
 浜松セントラルビル8階 日本宇宙フォーラム  
 次期月探査シンポジウム事務局 宛  
 Phone: 03 (3459) 1652  
 Fax: 03 (5402) 7521

第5回計算物理学国際会議

(ICCP5: The 5th International Conference on Computational Physics)

この国際会議は、第1回(1988)と第2回(1993)は北京、第3回(1995)は台湾、第4回(1997)はシンガポールで開催されました。アジア地域における計算科学の発展に寄与することを目標の一つに掲げていますが、欧米からも、主催国以外のアジア諸国・地域からと同数程度の研究者が参加してきました。Prof. D.H. Feng (USA) を委員長とする国際的な常置委員会によって運営されていますが、主催国の組織委員会が会議を主催することになっています。

主催: 第5回計算物理学国際会議組織委員会

協賛: 日本天文学会, 日本物理学会 (予定), 日本応用数理学会, 日本化学会, 日本シミュレーション学会, ほか

日時: 1999年10月11日(月)～13日(水)

場所: 石川県地場産業振興センター

(〒920-0223 金沢市戸水町イ80番地)

内容: 計算物理学に関する最近の発展を議論する [組織委員会委員長: 樋渡保秋 (金沢大学計算科学), 小柳義夫 (東京大学情報科学)]

主な領域は,

- 素粒子および核物理
- 物質科学
- 統計物理学
- 宇宙論および天体物理
- プラズマ物理および流体力学

参加費: 30,000円 (プロシーディングス代金を含む) の予定

発表申込締切: 1999年6月30日(水)

参加登録事前申込締切: 1999年8月31日(火)

連絡先: 〒192-0397 八王子市南大沢1-1

東京都立大学理学研究科 岡部 豊

[okabe@phys.metro-u.ac.jp](mailto:okabe@phys.metro-u.ac.jp)

詳細は

<http://hiwa003.s.kanazawa-u.ac.jp/iccp5/index.html> 参照.

|  |   |
|--|---|
| 編集委員   | 末松芳法 (編集長), 上野宗孝, 大橋正健, 小谷太郎, 辻本拓司, 野口邦男, 平野尚美, 宮坂正大  |
| 平成10年12月20日                                      | 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会   |
| 印刷発行   | 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷   |
| 定価700円 (本体667円)                                  | 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会   |
| TEL: 0422-31-1359 (事務室) / 0422-31-5488 (月報・欧文編集) | FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595  |
| 日本天文学会のホームページ                                    | <a href="http://www.tenmon.or.jp">http://www.tenmon.or.jp</a> 月報編集 e-mail: <a href="mailto:gpjimu@tenmon.or.jp">gpjimu@tenmon.or.jp</a> |